

座 標

1



Co or di na

te

s



2



3

10.10

—

12.20

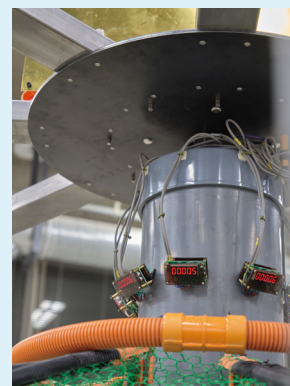
TOKYO ATLAS 関連企画
東京都による
支援作家たちの現在地

4



5

WHAT
MUSEUM



目次

1. TOKYO ATLAS関連企画「座標」開催概要	1
2. 全アーティスト発表	2
3. 会期中プログラム	12
4. キービジュアル発表	12
5. 国際美術展「TOKYO ATLAS」開催概要	13

キービジュアル画像クレジット

- 1 西村涼《私の生命を旅する 2》2023
Photo by KONO Yurika, Courtesy of Aomori Contemporary Art Centre, Aomori Public University
- 2 野村在《Today (21st of December, 2023)》2025
©Zai Nomura, in courtesy of PARCEL
- 3 海野林太郎《飛行日記 20231205-20240524》2024
Photo by TAMAKI Kai
- 4 陳郁文《If I mention a tree, what color do you think it should be?》2022
Photo by WANG Chung Ping, Courtesy of Sera Yu Wen CHEN
- 5 何梓羽《情報は常に不足している、だからマニ車を回そう》2024
Photo by ZHAO Zizhen

1. TOKYO ATLAS関連企画「座標」開催概要

本展は、東京都、東京国際文化芸術祭実行委員会及び公益財団法人東京都歴史文化財団が主催する国際美術展「TOKYO ATLAS」の関連企画として、同展と同じ期間中、天王洲のWHAT MUSEUMにて開催します。

1F展示会場は、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が実施する「アートマネジメント人材等海外派遣プログラム」を経験したキュレーターを中心に企画。2F展示会場は、国内外の幅広いジャンルのアーティストやクリエイターの活動や実験的な試みを継続的に支援してきたトーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) が、TOKASやアーツカウンシル東京のプログラムに参加経験のあるアーティストによる展覧会を構成します。

「座標」は、東京都がこれまで支援してきたアーティストやキュレーターを中心に、それぞれの創造的活動の「現在地」に光を当てる展覧会です。タイトルの「座標」が示すように、個々の活動の軌跡と現在地が、多様な視点や実践とともにTOKYO ATLASという国際的な舞台で交差することで、新たな座標を描き出すことを目指します。

【名称】 座標 (英題: Coordinates)

【会期】 2026年10月10日(土)–12月20日(日) ※月曜休(祝日の場合、翌火曜休／10月12日、11月23日開場)

【開場時間】 10時–17時 (最終入場 16時30分) ※10月10日–11日は20時まで (最終入場19時30分)

【会場】 WHAT MUSEUM
140-0002 東京都品川区東品川2丁目6–10 寺田倉庫 G号

【入場料】 無料

【主催】 東京都、東京国際文化芸術祭実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団

【公式ウェブページ】 <https://tokyoatlas.jp/zahyo> instagram: @tokyoatlas_zahyo_coordinates



【チーム体制】 1F展示 | 企画：岩田智哉 (キュレーター)
木村こころ、エリカ・ドレスクラー (アソシエイト・キュレーター)
2F展示 | 企画：トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS)
近藤由紀、大島彩子、中川千恵子
プロジェクト・マネジメント | 三木茜、池澤加那、見目はる香

【協賛】 寺田倉庫株式会社、品川区、中川特殊鋼株式会社、大成温調株式会社



【協力】 アーツカウンシル東京、トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS)



2. 全アーティスト発表

1F展示

青柳菜摘+細井美裕
陳郁文（セラ・ユウェン・チェン）
何梓羽（カ・シウ）
西村涼
佐藤浩一+梅沢英樹
山縣瑠衣

2F展示

ちえんしげ
播磨みどり
小林椋
黒田恭章
野村在
大原崇嘉
谷崎桃子
海野林太郎
白井仁美

TOKASキュレーション パフォーマンス・プログラム

根本しゅん平

エントランス公開制作

尾形凌

1F展示

将来アーティストと社会をつなぐ役割を担うアートマネジメント人材等を短期で芸術フェスティバルなどに派遣し、国際的な活動の第一歩となるよう、海外の芸術文化関係者とのネットワークをつくる機会を提供するアートマネジメント人材等海外派遣プログラムを経験したキュレーターを中心に企画。品川周辺の歴史や埋立地という会場周辺の地理的な特徴を土台に、アーティストの視点を通して新たなランドスケープを探ります。

岩田智哉（キュレーター）
木村ころろ（アソシエイト・キュレーター）
エリカ・ドレスクラー（アソシエイト・キュレーター）

アートマネジメント人材等海外派遣プログラム

芸術文化で躍動する都市・東京を目指し、2023年から開始。公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が、アーティストと社会をつなぐ若手アートマネジメント人材を短期で芸術フェスティバル等に派遣し、国際的な活動の第一歩となるよう海外の芸術文化関係者とのネットワークを作る機会を提供します。海外の先駆的な作品や創作現場に直に触れることで、国際的な視点に立った創作の機運醸成を図るとともに、将来的には本事業を通じて東京と各派遣先・海外セクターとのネットワーク構築・強化につなげます。2023年・2024年は3カ国、2025年は5カ国へ派遣しました。

1F展示キュレーターの岩田智哉、および本展プロジェクト・マネジメントを務める三木茜は2024年度プログラム（第60回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展派遣）に参加、1F展示アソシエイト・キュレーターの木村ころろは2025年度プログラム（第36回サンパウロ・ビエンナーレ派遣）に参加しています。



参加アーティスト

青柳菜摘+細井美裕

陳郁文（セラ・ユウェン・チェン）

何梓羽（カ・シウ）

西村涼

佐藤浩一+梅沢英樹

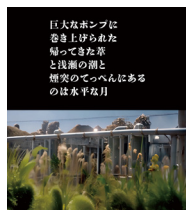
山縣瑠衣

青柳菜摘 AOYAGI Natsumi

1990年東京都生まれ。2016年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。映像メディアを用いた同時代芸術のアーティストとして、フィールドワークやリサーチをもとに、プロジェクトベースに主題を立てて作品を発表している。「JUMP アーティスト+キュレーター国際協働プログラム」に選出され、2026年にポルトガルで作品発表予定。コ本や honkbooks主宰。

近年の主な展覧会に、「ICCアニュアル2024 とても近い遠さ」（NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2024）、「亡船記」（十和田市現代美術館、青森、2022）などがある。詩集『そだつのをやめる』（thoasa、2022）が第28回中原中也賞受賞（2023）。

「Sound Atlas #1『極地からの音』（シビック・クリエイティブ・ベース東京[CCBT]、2025）、「布施琳太郎 市外劇=ツアー型展覧会『パピリオン・ゼロ：空の水族園』（シビック・クリエイティブ・ベース東京[CCBT]、2025）参加。「TOKAS 本郷ガイドマップ 音声ガイド」（2025）の制作に関わり、「OPEN SITE 11:『本郷で／描線を／聞くー 観察するための音声ガイド創作ワークショップ』（トーキョーアーツアンドスペース本郷、2026）を実施予定。



作品 | 青柳菜摘+細井美裕《新地登記簿》2024

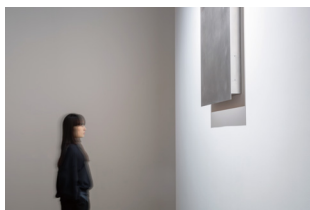
ポートレート | Photo by WADA Shintaro

細井美裕 HOSOI Miyu

1993年愛知県生まれ。2016年慶應義塾大学総合政策学部卒業。現在、東京都を拠点に活動を行う。サウンドインスタレーションや舞台作品を中心に、音を持つ情報伝達の可能性と不可能性を探る。近年は、場所・もの・ひとの記憶と記録について、国内外でリサーチベースのプロジェクトに取り組む。2026年10月国際交流基金の助成でCemeti Institute for Art and Society（インドネシア）に滞在予定。

近年の主な展覧会・公演に、「六本木クロッシング2025展：時間は過ぎ去る わたしたちは永遠」（森美術館、東京、2025-2026）、「Feel the Sound」（ハービカン・センター、ロンドン、2025）、「Sound Around 005『世界交換手』（ロームシアター京都、2025）などがある。

「Sound Atlas #1『極地からの音』（シビック・クリエイティブ・ベース東京[CCBT]、2025）参加。「TOKAS 本郷ガイドマップ 音声ガイド」（2025）の制作に関わり、「OPEN SITE 11:『本郷で／描線を／聞くー 観察するための音声ガイド創作ワークショップ』（トーキョーアーツアンドスペース本郷、2026）を実施予定。



作品 | 青柳菜摘+細井美裕《新地登記簿》2024

Photo by KIOKU Keizo, Courtesy of NTT InterCommunication Center [ICC]

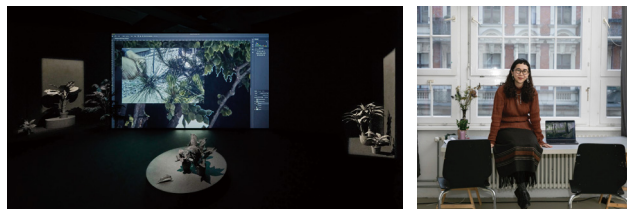
ポートレート | Photo by MITSUYA So

陳郁文 (セラ・ユウェン・チェン) Sera Yu Wen CHEN

1991年台湾生まれ。2019年シカゴ美術館附属美術大学修士課程(美術)修了。現在、台北(台湾)を拠点に活動を行う。映像、写真、インスタレーション、ニューメディアを横断しながら、風景や植物、アーカイブを手がかりに、記憶、文化的アイデンティティ、場所の関係性を探求し、移動や植民地主義、環境変化の歴史が現代の経験にどのように刻まれているのかを問いつけている。

近年の主な展覧会に、「Perceive Shadows in Mother Tongue」(Künstlerhaus Bethanien、ベルリン、2024)、「Tropical Imagination」(台北国際芸術村、2023)、「Everyday Fictionality: Beholding Shadows of Illusion」(台北市立美術館、2019)などがある。

「TOKAS Project Vol. 5『ひもとく』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2022)、トーキョーアーツアンドスペース二国間交流事業プログラム招聘(台北)(2022)等参加。



作品 | 《If I mention a tree, what color do you think it should be?》2022
Photo by TAKAHASHI Kenji, Courtesy of Tokyo Arts and Space
ポートレート | Photo by Galya FEIERMAN, Courtesy of Künstlerhaus Bethanien

何梓羽 (カ・シウ) KASHIU

1990年四川省(中国)生まれ。2026年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース修了。2017年北海道大学大学院国際広報メディア修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。信仰、労働、アルゴリズムなどの反復的なシステムを通して、「リアリティ」がいかに構造的に生成されるのかを扱う。機械装置、運動機構、音を用いた可動構造を制作し、金属グリッドや工業製品、拾得物によって内部の仕組を可視化すると同時に、ブリコラージュ的な手法によって構造の中にブレや不安定さを生じさせる。

近年の主な展覧会に、「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2026」(行幸地下ギャラリー、東京、2026)、「P.O.N.D.2025 Swing Beyond / 揺らぎごと、超えていく。」(PARCO MUSEUM TOKYO、東京、2025)、「写実虚構 | Factual Fictions」(START GALLERY 4、神奈川、2025)などがある。

Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP) (アーツカウンシル東京、2026) 参加。



作品 | 《リアリストの占い Ver.2》2025 Photo by ZHAO Zizhen
ポートレート | Photo by WU Ke

西村涼 NISHIMURA Ryo

1993年京都府生まれ。2018年京都市立芸術大学修士課程版画専攻修了。現在、京都府を拠点に活動を行う。銅版画のドライポイント技法を主に用いながら自然界に流れる線を写し取り、自然の流動性や生命のいとなみを可視化する。版画を彫り、刷る行為を通じて、物事を観察して想像上のイメージを描き、自然界に本来なかった線という概念を、絵として実体化させて世界を探るという太古から続く人類のいとなみをなぞっている。

近年の主な展覧会に、「水の脈をとどめる」(高松市美術館市民ギャラリー / SICSサステナブルラウンジ、香川、2025)、「Putting life on paper / 光の種子を蒔く」(TAKU SOMETANI GALLERY、東京、2025)、「時に潜る」(国際芸術センター青森、2023)などがある。

「TOKAS-Emerging 2026:『私の生命を旅する／形象を追放する／風景を見つめる』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2026) 参加。

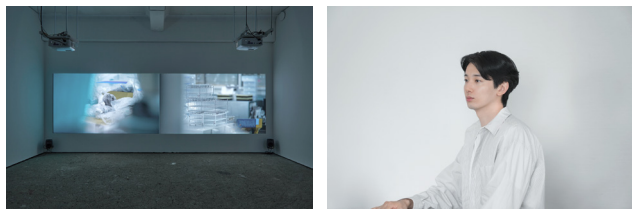


展示風景 | 「TOKAS-Emerging 2026:『私の生命を旅する／形象を追放する／風景を見つめる』」
(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2026) Photo by KATO Ken, Courtesy of Tokyo Arts and Space
ポートレート | Photo by KONO Yurika, Courtesy of Aomori Contemporary Art Centre, Aomori Public University

佐藤浩一 SATO Koichi

1990年東京都生まれ。2019年東京藝術大学大学院美術研究科修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。産業社会／消費社会と、その背後にある欲望が、自然環境や生物といった非人間的な存在をどのように扱ってきたのかに関心を持ち、リサーチやフィールドワークを行う。映像を主軸に、音や香りといった非物質的な素材も組み合わせながら作品を制作する。

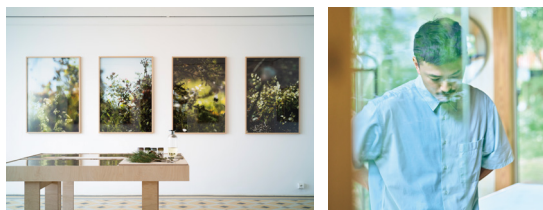
近年の主な展覧会に、「モノのエコロジー」(パリ日本文化会館、2025)、「すべてのものとダンスを踊ってー共感のエコロジー」(金沢21世紀美術館、2024)、「ATAMI ART GRANT 2024」(熱海市内各所、静岡、2024)などがある。「OPEN SITE 9: KANTO (佐藤浩一+ARCHIVE)『水の博物館』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2025)、Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP) (アーツカウンシル東京、2024) 参加。東京芸術文化創造発信助成 (アーツカウンシル東京、2021) 採択。



作品 | 《武蔵野の流水》2025
「OPEN SITE 9: KANTO (佐藤浩一+ARCHIVE)『水の博物館』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2025)
Photo by TAKAHASHI Kenji, Courtesy of Tokyo Arts and Space

梅沢英樹 UMEZAWA Hideki

1986年群馬県生まれ。2019年東京藝術大学大学院美術研究科修了。現在、東京都およびパリ(フランス)を拠点に活動を行う。環境の中で知覚する前言語的な感覚や、自然現象の複雑性への関心をもとに、世界各地でフィールド・ワークやリサーチを行い、サウンドやイメージを採集し、様々なメディアを組み合わせたインスタレーションの制作・発表を行う。近年の主な展覧会に、「関係性のエコロジー」(マルセイユ現代美術センター、2026)、「モノのエコロジー」(パリ日本文化会館、2025)、「すべてのものとダンスを踊ってー共感のエコロジー」(金沢21世紀美術館、2024)などがある。東京芸術文化創造発信助成 (アーツカウンシル東京、2021) 採択。



作品 | 《Gazing at Traces in Each Place》2025
ポートレート | Photo by TAKENOUCHI Hiroyuki

山縣瑠衣 YAMAGATA Rui

1997年長野県生まれ。2022年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。視覚テクノロジーが生み出す可視と不可視の境界、見ることと知ることの間にある構造的な距離に関心を寄せる。Googleマップなどの俯瞰的画像、映像、絵画を横断しながら、地上にある身体の実験とその限界を問う作品を制作している。近年の主な展覧会に、「Pararell Circuit」(東京藝術大学陳列館、2025)、「風景記譜法」(クマ財団ギャラリー、東京、2024)、「Ground Zero」(京都芸術センター、2023)などがある。



作品 | 《画素と屋根》2023 Photo by MATSUMI Takuya

2F展示

国内外の幅広いジャンルのアーティストやクリエイターの活動や実験的な試みを継続的に支援してきたトーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) が、TOKASや公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京のプログラムに参加経験のあるアーティストによる展覧会を構成。それぞれの身体感覚に基づき、自らの手から生み出される平面作品や立体、映像作品、パフォーマンスなどをとおして、さまざまな角度から現代美術の現在地を提示します。

近藤由紀 (トーキョーアーツアンドスペース、プログラムディレクター)

大島彩子 (トーキョーアーツアンドスペース、キュレーター)

中川千恵子 (トーキョーアーツアンドスペース、キュレーター)

トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS)

公益財団法人東京都歴史文化財団が運営するTOKASは2001年に開館し、展覧会、公演、レジデンス・プログラムなど多岐にわたる活動を行ってきました。TOKAS本郷では、若手アーティストを個展形式で紹介する「TOKAS-Emerging」、国際的なキュレーターや文化機関と協働する「TOKAS Project」、ジャンルを問わず実験的な企画を実施する企画公募「OPEN SITE」といった展覧会事業を実施し、墨田区両国エリアに構えるTOKASレジデンスでは、各国のアーティストが滞在制作を行うレジデンス・プログラムを運営しています。

また、2018年より東京都と現代美術賞「Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)」を創設し、海外での活動に意欲をもつ中堅アーティストを対象に複数年に渡る継続的な活動支援を行っています。



参加アーティスト

ちえんしげ

播磨みどり

小林棕

黒田恭章

野村在

大原崇嘉

谷崎桃子

海野林太郎

白井仁美

ちえんしげ CHEN Shige

1993年台湾生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科美術専攻先端芸術表現研究領域博士後期課程。現在、茨城県を拠点に活動を行う。絵画表現と記述表現を主軸に、両者をめぐる配置方法や境界、共存、乖離を遊びながら、その延長線上にある圧縮された(おトクな)視覚像や複言語社会、ディスコミュニケーション、特定の意味を持たない書写(アセミクライティング)などへのアプローチを思い巡らせる。最近は紙に書かれる造形表現や複言語マンガの記述方法に関心を寄せている。

近年の主な展覧会に、「構文；虚言；註と層と像」(SPACE NOBORU、東京、2025)、「群馬青年ビエンナーレ2025」(群馬県立近代美術館)などがある。

「TOKAS-Emerging 2023:『玄関をDumplingするには漂流なり』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷)参加。



展示風景 |「バグスクール2024:野生の都市」(アートセンター BUG、2024)

Photo by YAMAMOTO Kohei

播磨みどり HARIMA Midori

1976年神奈川県生まれ。2000年女子美術大学芸術学部美術学科版画コース卒業。現在、神奈川県を拠点に活動を行う。印刷メディアにおける自身の経験を起点に制作を行い、白黒コピーによる紙の立体作品をはじめ、近年は、版画・写真・映像などのアナログ複製メディアを使って、作品と制作行為における作者を脱中心化する方法を探っている。近年の主な展覧会に、「修復の練習」(The Terminal KYOTO、京都、2025)、「場と印刷」(Maho Kubota Gallery、東京、2023)、「This is A Mirror」(The Shirley Fiterman Art Center、ニューヨーク、2023)などがある。トーキョーワンダーサイト二国間交流事業プログラム派遣(ソウル)(2015)参加。



作品 | 《This is A Mirror, After Camnitzer》2022

小林椋 KOBAYASHI Muku

1992年東京都生まれ。2019年京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。現在、埼玉県を拠点に活動を行う。ものの「動き」を起点にしながら、不和のようなものを発生させる装置を組み立てたり、そうした仕組みをほかの事物と類推させたりすることで生まれる飛躍を観察しながら、彫刻やインスタレーション作品を制作する。時里充との演奏ユニット「正直」としても活動中。

近年の主な展覧会に、「且ん凡ん目ん、あと皿」(GASBON METABOLISM、山梨、2025)、「Everyday Enchantment 日常の再魔術化」(CHANEL NEXUS HALL、東京、2024)などがある。

「OPEN SITE 7:『亀はニフスのイユのように前足を石にのぼすと』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2022)、「TOKYO EXPERIMENTAL FESTIVAL Vol. 9:『ヨコとか下とか』」(トーキョーワンダーサイト本郷、2014)参加。



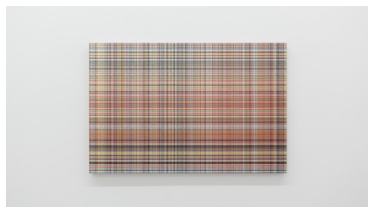
作品 | 《にこげの二枚貝の盤面》2024

黒田恭章 KURODA Yasuaki

1986年新潟県出身。2012年武蔵野美術大学大学院造形研究科デザイン専攻工芸工業デザインコース修了。現在、神奈川県を拠点に活動を行う。糸と言葉の関係に着想を得て、草木染めの絹糸を一本ずつ選び織物を制作する。数千から数万回の選択の集積として織物は形成され、そこには作者だけでなく、蚕や草木、土や水など多様な存在の歴史と関係性が織り込まれている。織る行為をととして、人と世界の相互的な生成を考える。

近年の主な展覧会に、「COUNTERPOINT」(drj art projects、ベルリン、2025)、「COLOUR FIELD ON FIELD」(Galerie Robertson Arès、モントリオール、カナダ、2024)、「『見る』をほどく」(ANAインターコンチネンタルホテル東京、2024)などがある。

Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP) (アーツカウンシル東京、2025)、「TWS-Emerging 2017:『contextile』」(トーキョーワンダーサイト本郷)参加。



作品 | 《全ての他者たち》2026

野村在 NOMURA Zai

1979年兵庫県生まれ。2013年武蔵野美術大学博士課程修了。現在、ニューヨーク、東京都、兵庫県を拠点に活動を行う。存在と記憶の関係を軸に、写真・彫刻・装置、時にパフォーマンスも用いながら、肉体を含む物質の消失や記憶の変容を探究する。日常の微細な痕跡を作品化し、物質や時間の揺らぎを可視化することで、存在のあり方や本質を暴露することを試みる。

近年の主な展覧会に、「第13回ソウル・メディアシティ・ビエンナーレ:交霊会:精霊のテクノロジー」(ソウル市立美術館、2025)、「君の存在は消えない、だから大丈夫」(資生堂ギャラリー、東京、2024)、「At Six and Seven」(Uterior Gallery、ニューヨーク、2022)などがある。

「OPEN SITE 8:『Can't Remember I Forgot You - 忘れたことすら、覚えていない』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2024) 参加。



作品 |『Lost and Found』2024 Photo by TAKAHASHI Kenji, Courtesy of Tokyo Arts and Space
ポートレート | Photo by YAMAZAKI Tomoyo

大原崇嘉 OHARA Takayoshi

1986年神奈川県生まれ。2012年東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。色彩、空間、視覚認知の考察を基盤に、デジタルメディアを用いた作品を通じて、現代のメディア環境におけるイメージの拡張と相互作用を探究している。古澤龍、柳川智之とともにアーティスト・コレクティブ「ヨフ」としても活動中。近年の主な展覧会に、「やまなしメディア芸術アワード2023-24 入選作品展」(GASBON METABOLISM、山梨、2024)、「芸術未来研究場展」(東京藝術大学大学美術館、2023)、「ICCキッズ・プログラム2023『こんにちは、もうひとりのじぶん』」(NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2023)などがある。

「ACT (Artists Contemporary TOKAS) Vol. 6:『メニスル』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷、2024 [ヨフ])、START Box (アーツカウンシル東京、2023) 参加、東京芸術文化創造発信助成 (アーツカウンシル東京、2020 [ヨフ]) 採択。



作品 |『Suspensions』2026

谷崎桃子 TANIZAKI Momoko

1991年東京都生まれ。2016年東京造形大学大学院美術研究領域修了。現在、神奈川県・湯河原を拠点に活動を行う。感情を赤裸々に表出するメディアとして絵画と向き合い、ネガティブなものを含む様々な体験の受容や回復の力を探究する。日常のささやかな感受性や世俗的な営みの中に潜むエネルギーを掴み、作品として可視化することを目指している。近年の主な展覧会に、「喧騒都市」(tata bookshop/gallery、東京、2026)、「鳥はどこから来たのだろうか?私は鳥に魅入られ、それに逆らえない」(COPYCENTER GALLERY、東京、2025)、「ミッドナイト・ドリフター」(soda、京都、2025)などがある。

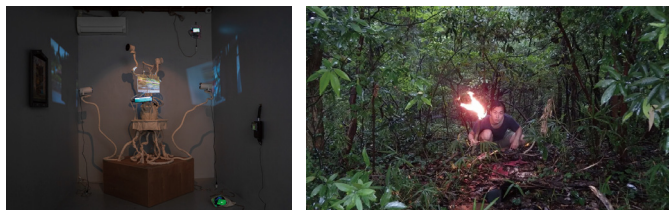
トーキョーアーツアンドスペース二国間交流事業プログラム派遣〔ケベック〕(2023)、「TOKAS-Emerging 2019:『lonely girl もう時間』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷)等参加。



作品 |『ミッドナイトドリフター』2025

海野林太郎 UNNO Rintaro

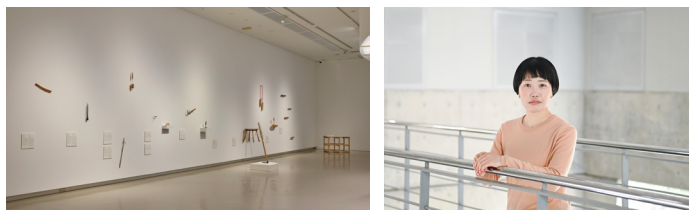
1992年東京都生まれ。2018年東京藝術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了。現在、東京都を拠点に活動を行う。映像、インスタレーション、絵画や立体などのメディアを往来して制作を行う現代美術家。天使やゲーム、無人航空機など多様なモチーフを扱い、メディアと個人・社会の関係を問いながら、人間の信念や特異な世界への眼差し方を探究している。マテリアルショップ「カタルシスの岸边」運営メンバー。近年は「アートエンジェル」とも名乗っている。近年の主な展覧会に、「スピリチュアル・フィクションズ」(デカメロン、東京、2025)、「『牢』vol. 2」(Forestlimit、東京、2025)、「奇跡」(EUKARYOTE、東京、2024) などがある。「OPEN SITE 2019-2020:『風景の反撃 / 執着的探訪』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷) 参加。



作品 | 《デバイスとしての天使(往来 - All right!!)》2025

臼井仁美 USUI Hitomi

1980年東京都生まれ。2010年東京藝術大学大学院美術研究科修了。現在、東京都と神奈川県を拠点に活動を行う。世界を理解するための術としての制作活動をととして、人々の営みと生物の姿、その関係性を探究している。主に木を素材とし、想像上の「木器時代」を手がかりに、人間の自然への眼差しや、生活に溶け込んだ植物との関わり、民俗文化への関心をもとに制作する。近年の主な展覧会に、「Hiroshima MoCA FIVE 25/26」(広島市現代美術館、2025-2026)、「NEW New Artists / NEW Backbone Artists 2025」(Art Center NEW、神奈川、2025) などがある。Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP) (アーツカウンシル東京、2024)、トーキョーアーツアンドスペース二国間交流事業プログラム派遣〔ヘルシンキ〕(2017) 等参加。



作品 | 《棚に枝、柱の氣息、ケズリカケの木々》(Hiroshima MoCA FIVE 25/26、広島市現代美術館、2025)
Photo by HANADA Kenichi

「TOKASキュレーション パフォーマンス・プログラム」

会場であるWHAT MUSEUMエントランス、ならびに天王洲セントラルタワーのエントランスにおいて根本しゅん平によるパフォーマンスを実施予定。

根本しゅん平 NEMOTO Shumpei

1983年神奈川県生まれ。日英でダンスを学び、近年は、独自の音響システムを組み上げるプロセスと、そこに身体の動きを介入させ音を生成するプロセスに関心があり、日々の実践を通して探求を続けている。

近年の主な発表に「Underway」(ロームシアター京都 ローム・スクエア、2025)、「Night Sea」(富士見市民文化会館 キラリふじみ、埼玉、2024)、「Night Sea, Island, Wave(s)」(UnterwegsTheater Heidelberg、ハイデルベルク、ドイツ、2023) などがある。

「OPEN SITE 2018-2019:『It captures me, It moves me and It's gone』」(トーキョーアーツアンドスペース本郷) 参加。



エントランス 公開制作アーティスト

若手アーティストに創作場所を提供することを目的に、東京都及び公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京が運営する創作活動スペース「START Box お台場」で2024年と2025年にスタジオ制作を行ったアーティストによる公開制作。

尾形凌 OGATA Ryo

2001年東京都生まれ。2026年東京藝術大学美術学部先端芸術表現科修士課程在籍。現代における妖怪や不可視の存在たちを作品の主題とし、絵画や立体、アニメーションなどを通じて表現している。加えて妖怪と人間の狭間やあの世とこの世の狭間に存在する世界を描く事でそれらを可視化することを試みている。

近年の主な展覧会に、「てやんでい!べらぼうめ展」(27gallery tokyo、東京、2025)、「涅槃・NIRVANA」(digger gallery、東京、2023) などがある。

START Box(アーツカウンシル東京、2024 / 2025)、「START Box EXHIBITION vol. 3」(YAU CENTER、東京、2025) 参加。



作品 | 《猫仙酒宴図》2025

3. 会期中プログラム

本展開催期間中には、1F及び2F展示参加アーティストらが登壇するトークプログラムのほか、鑑賞体験を深めるためのツアー型鑑賞、ワークショップなどを開催いたします。

どなたでもご参加可能ですが、一部のプログラムは事前申し込みが必要となります。プログラムの全貌や申し込みフォームは9月公開予定です。

4. キービジュアル発表

ビジュアルコンセプト

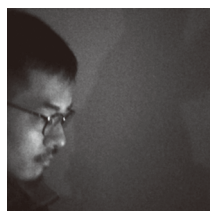
本展のビジュアルは、「座標」というテーマを空間的なレイアウトによって表現しています。タイトル、作品写真、会期情報などの要素が分散して配置されることで、それぞれが独立した「点」でありながら、ひとつの空間のなかで関係性を構築します。これは、東京都の支援を受けながら多様な領域で活動が続けるアーティストやキュレーター、マネジメント人材たちの現在地に重ね合わせたものです。背景に広がる淡いブルーの色面は、多様な活動や視点が交差するための座標平面として存在しています。情報を分散／組み替え可能な状態に保つことで、固定された意味や序列ではなく、鑑賞者自身が新たな地図を発見していく体験を促します。支援によって育まれてきた多様な実践をひとつの座標系のなかで捉え直し、その動的な関係性を可視化することを目指しました。



山田悠太郎 YAMADA Yutaro

1992年北海道生まれ。2018年東京藝術大学大学院美術研究科修了。2018年より田中義久に師事、centre Inc.所属を経て、2024年独立。文化施設や展覧会のためのビジュアルアイデンティティの開発、作品集や書籍の装丁などのグラフィックデザインを行う。自身の筆致や特定の場所におけるフロッタージュなどの絵画的要素を取り入れながら、メディアの物質性を手がかりとした実践を展開している。

START Box (アーツカウンシル東京、2023) 参加。



5. 国際美術展 TOKYO ATLAS 開催概要

【名称】 日本語：国際美術展 TOKYO ATLAS（読み方：コクサイビジュツテン トウキョウ アトラス）
英語：TOKYO ATLAS International Art Exhibition

【会期】 2026年10月10日（土）～12月20日（日）
※月曜休（祝日の場合、翌火曜休／10月12日、11月23日開場）

【会場】 ※観覧無料（一部有料プログラムあり）
[台場エリア] 台場公園・お台場海浜公園
[青海エリア] テレコムセンタービル、青海南ふ頭公園、地下駐車場（青海南ふ頭公園内）
[天王洲エリア] アイルしながわ、WHAT MUSEUM

【主催】 東京都、東京国際文化芸術祭実行委員会、公益財団法人東京都歴史文化財団

【公式ホームページ】
tokyoatlas.jp Instagram：@tokyoatlas_official



【パートナー】 助成：ブリティッシュ・カウンシル、大和日英基金



協賛：株式会社JTB、寺田倉庫株式会社、株式会社東京テレポートセンター、
株式会社みずほ銀行、株式会社竹中工務店、株式会社 The Chain Museum、
東京モノレール株式会社、品川区、中川特殊鋼株式会社、NTTドコモビジネス株式会社、
ミサワホーム株式会社、全日本空輸株式会社、株式会社SGC、株式会社MONO、
株式会社桑原商店、大成温調株式会社、株式会社銀座シルク洋装店、
アクアウェッジ株式会社



報道関係のお問合せ先

国際美術展「TOKYO ATLAS」PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）

担当：蓮見（080-4652-1423）、田中（080-4191-6365）、堀江、俊成

E-mail：tokyo_atlas_pr@ssu.co.jp

オフィシャル素材ダウンロード先：https://x.gd/50rsC